

苦小牧市医師会

医師

志藤 文明

扁桃(腺)の話

扁桃(腺) へんとうせん Ⅱ
がたびたび腫(は)れてよく熱が出る、いつもノドが痛いなど、扁桃(腺)でお悩みの方は多いようです。

口を大きく開けるとノドの両わきに見える左右一対の肉塊、これが一般に扁桃腺と呼ばれているノドのリンパ組織です。医学的には腺ではなく扁桃(形がアーモンドに似ていること)に由

感染と免疫の二面性臓器

来)が正しい呼び方です。

扁桃には蜂の巣のように穴(陰窩)が開いており、この穴の表面積はノドの全体の約六・五倍と言われています。この構造のために扁桃は細菌などの異物が侵入しやすくなっており、炎症を起こすとともに体の免疫の発達を促します。

これが扁桃の免疫臓器としての役割です。この役割は乳幼児

期に終わり、通常、思春期までに扁桃は萎縮(いしゆく)しますが、役割を終えたあとも感染さえ起こさなければ、問題はありません。

しかし、この蜂の巣状構造がウイルスまたは細菌の温床となつて、感染(扁桃炎)を起こす人が多いのも事実です。

急性炎症を繰り返す反復性扁桃炎(習慣性アンギナ)、炎症が

長期にわたり持続する慢性扁桃炎、さらに皮膚、骨関節、腎(じん)臓などの身体のほかの部位に二次疾患を生じてくる病巣性扁桃炎となると、扁桃は感染臓器として病的な役割しか持たなくなり、手術(扁桃摘出術)の対象となります。

ところが扁桃の手術には一般に広く誤解があります。

昔は扁桃が大きいというだけ

で片っ端からとった時代があり、また、扁桃がリンパ節の一部であることが分かってくると、扁桃をとると体の抵抗力(免疫能)が弱くなるといった誤解が生まりました。

現在ではその両方とも間違っていることが分かっています。つまり、気道狭窄(きょうさく)・睡眠時無呼吸(すいみんじむく)などを起こさない程度の単なる生理的扁桃肥大ではとる必要はなく、また病的扁桃を摘出しても何ら悪影響はないということが医学的に明らかになっています。

お問合せは、苦小牧市医師会
電話 33-4720へ